

噶矢会行政視察報告

参加者 古谷幸男・尾崎隆則・友田秀明

平成 29 年 5 月 23 日～24 日

5 月 23 日 視察先 ボートレース大村

視察項目

施設概要について

5 月 24 日 視察先 長崎県 諫早市

視察項目

市議会タブレット端末導入について

嘴矢会行政視察 29年5月23日～5月24日 大村競艇。諫早市 友田秀明

ボートレース大村 5月23日

視察項目 施設概要他

大村競艇はボートレース発祥の地で昭和27年4月6日全国に先駆け初開催をしたボートレース場である。嘗ては徳山競艇と同じように一般会計へ約30億円も繰り出したこともあったが、バブル崩壊後売上減少が続き色々な取り組みも功を生ぜず累積赤字がじ平成15年12月に16年～18年度までの再建計画を策定し、経営改善を図り17年度決算で7年振りに黒字転換を果たした。特筆すべき取り組みとして長崎県内に7ヵ所県外に6ヵ所、計13ヵ所の場外発売所を開設して、新規顧客の開拓による売り上げ増を図ったことである。19年には累積欠損を解消し、14年から休止していた繰り出し金も20年度から再開し25年度までに約22億円繰り出し、25年度スタンド解体費等の特別損出を出したが翌年度には黒字に転換し27年3月には新スタンドで開催しSGオールスター競走開催では過去最高売上の498億円を記録し28年度もSGレースを開催し順調に推移している。本市の徳山は銀座通りに施設としては日本最低のオラレと田布施の2ヵ所の場外しかなく、好調のモーニングレースも来年4月には2ヵ所のレース場がモーニングレース開催に参戦してくれることに危機感を持って対策を講じる、それも早急にするべきである。

視察項目 市議会タブレット端末導入について

導入目的として、①市民へ議会活動に関する情報を積極的に提供し、議会への市民の関心の向上と参加機会の拡大を図る。②議会活動の能率性と利便性の向上を図り、議員の性差アカ立案能力・発信を高める。③議会事務の効率化・省力化を図る事を目的としている。導入への課題として検討された事として、議会活動の能率や利便性の観点から＊資料の検索・整理に多くの時間と労力＊インターネット接続環境が不十分。市民への情報提供の観点から＊議案や議案資料等市民への情報公開が不十分。事務効率化・省力化の観点から＊議案書等の訂正が煩雑：議員への会議開催通知や事務連絡等（FAX）が非効率：議案書や会議録等の印刷に多額の費用と労務費以上の課題をクリアすることを課題として検討されていました。その結果何故タブレット端末が良いかについては、携帯性に優れている、スマホと比較して画面が大きく見やすい、資料の立て・横に合わせられる、映像情報が保存できる、紙の資料を閲覧する方法に近い操作、ノート型パソコンより価格が安い、以上のような優位点が認められている。効果として、議員活動では大量の資料の持ち運びが容易、あらゆる情報端末で資料を閲覧、資料の保管スペース・整理が不要。議会事務においては、会議開催通知や連絡時間の短縮、会議資料の事前配布が容易。市民の利便性として、議会の情報にアクセスが容易。コスト削減として、予算書や決算書等印刷費の削減（約 160 万円）会議録印刷費の削減（約 530 万円）と私の予想以上の効果があること分かった。

視察報告 平成29年5月23日 長崎県大村市大村競艇

尾崎隆則

大村市は、第2次世界大戦終結にともない、軍事施設は解体され、農業以外にこれといった産業はなく、財政再建の対策に迫られていた。そのような中、昭和26年6月「モーターボート競走法」が公布され、大村湾に臨む大村市にとって最適な事業として、昭和27年4月全国に先駆け、初開催を迎えた。

県内に7か所・県外に6か所の場外発売所を開設している。

平成27年3月には約91億円を導入して、ロイヤルスタンド、外に向かって発売所を除く全施設を建て替えており。また、平成21年12月から全国に先駆けて、一般席での「キャッシュレス投票システム」を導入していた。

経営状況

平成17年度、7年ぶりに黒字となり、平成25年度までに約22億円を一般会計に繰り出している。

平成27年度は、SGオールスター競走などの開催で、過去最高となる498億円を記録した。また、平成28年度はSGチャレンジカップも開催している。

視察報告

平成29年5月24日 諫早市役所

タブレット端末の導入について

尾崎隆則

諫早市の概況・概要

長崎県のほぼ中央に位置し、干潟の有明海・内海の大村湾・外海の橘湾に面し、400年以上前からの干拓で形成された諫早平野は、長崎県最大の穀倉地帯となっている。

平成17年3月1日に、諫早市・多良見町・森山町・飯盛町・高来町・小長井町の1市5町が合併し、「ひとが輝く創造都市・諫早」の実現を目指し、誕生している。人口=約13万8千人・面積=341, 79 km²

一般会計予算=596億9, 800万円・特別会計=346億9, 070万円・議員定数=30人・報酬=市長、96万円・副市長=78万円・教育長=67万5, 000円・議長=50万円・副議長=42万円・議員=40万5, 000円となっている。

視察研修について

タブレット導入の目的について

- 1、市民へ議会活動に関する情報を積極的に提供し、議会への市民の関心の向上と参加機会の拡大を図る。
- 2、議会活動の能率性と利便性の向上を図り、議員の政策立案・能力・発言力を高める。
- 3、議会事務の効率化・省力化を図るため。
として、決してペーパーレス化が目的ではないと話された。

現状（平成26年度）における課題

議会活動の能率や利便性の観点から

- 1、資料の検索・整理に多くの時間と労力
- 2、インターネット接続環境が不十分（図書館へは2台設置してある）

市民への情報提供の観点から

- 1、議案や議案資料等市民への情報公開が不十分（市民は傍聴に来ないと分

からない)

事務の効率化・省力化の観点から

- 1、議案書等の訂正（手作業による差替え）が煩雑
- 2、議員への会議開催通知や事務連絡等（ファックス）が非効率
- 3、議案書や会議録等の印刷製本に多額の費用と労務費

タブレットとクラウド情報共有システム導入の理由

なぜタブレット端末か

- 1、携帯性に優れていること。（端末機器の活用範囲は、議場・会派室・自宅・出張先等幅広い。）
- 2、スマートフォンと比較して、表示できる画面が大きく、見やすいこと。
- 3、資料の縦・横のスタイルに合わせて画面全体に表示できること。
- 4、カメラ機能を使った映像情報が保存できること（視察地での記録・現場撮影など）。
- 5、紙の資料を閲覧する方法に近い操作が出来ること。
- 6、ノートパソコンと比較して価格が安いこと。

なぜクラウドか

- 1、サーバーの導入費用や保守管理経費等がかからないこと。
- 2、あらゆる情報端末でサーバーにアクセスできること。
- 3、サーバー等の管理に伴う職員の労力が軽減されること。

事業の効果

1、議員活動の機能と利便性の向上

- (1) 大量の資料の持ち運びが容易でかさばらない
- (2) 議会事務局等からの通知や事務連絡を何処でも迅速な受け取りが可能
- (3) あらゆる情報端末で資料を閲覧
- (4) 資料の保管スペース・整理が不要
- (5) 議会報告会や説明会・政務調査・視察研修・観光案内など、外部に持ち出してインターネットによる情報収集や現地で記録用の動画や写真撮影・録音・メモなどに活用

2、議会事務局・執行部の効率化、省力化

- (1) 各種会議開催通知や事務連絡の時間短縮
- (2) 会議資料の事前配布が容易となり、会議の効率化
- (3) 検索機能により、過去の資料を探し出す手間が省ける
- (4) 資料の保管場所が不要

3、市民の利便性の向上及び情報公開の推進

- (1) 市民があらゆる情報端末機器により議会の情報にアクセスが容易
- (2) 市民が情報を入手するための手間と費用がかからない

4、コストの削減

- (1) 予算書や決算書等印刷経費の削減 約160万円
- (2) 議案書や議案資料等のコピー代の削減 約42万円
- (3) 会議録印刷費の削減 約530万円
- (4) 書類をコピー・製本する労務費の削減

以上のことから、諫早市のタブレット導入についての研修であった。

私見

諫早市では平成26年8月より、議会運営委員会で岐阜県関市の導入状況を視察し、毎月のように議会運営委員会を繰り返し、平成27年6月議会より試験運用に至っていた。導入することによって事務局職員や、執行部はすごく楽になることは研修でもよくわかった。

周南市でも導入に向けての取組みが検討されているが、タブレットの仕組みや使用方法の理解にはかなりの時間がかかると考える。(自分が)

スマートホンが自由に操作できれば、可能かもしれないが、私には必要ないと感じている。導入を決定するのであれば、次回の選挙までに勉強して新しい議会からスタートするのが望ましい。

H29 5月23日

ポートレス大村 施設概要 運営について

古谷章男

議連代表者会議で少々遅れて取扱い合流にて、
ポートレス大村は競艇発祥の地で H27. 4月6日
全国に先駆け初開催され。

H30年代は売上りが伸びて廃止論まで至ること
ありながら売上りも序々に好転し最盛期には
一般会計へ約30億円も繰り出したこと。

しかし競艇が全国的に売上りから減少化傾向に
なり累積赤字を生じる状況となり。

この状況の中 H16~18年度で経営健全化を目指す
経営再建計画を策定。

その結果 H17年度に7年ぶりに黒字転換。
H.24年度まで8期連続黒字となり H19年度には
累積欠損金が解消した。 H14年度から休止
していた年賃収入もH20年度から再開し合計
22億円稼働化。

H.27. H28年度と2連続S6を譲り
一方で早々6ヶ月半以内に合計13ヶ月の
場合発売行を開設し新規顧客の開拓
をして。 一般会計に繰り出すことが最大の
使命役割である。

経営状況によって無理はできないがその努力には頭が下かる。

競争年の本業の役割、そしてそのためのファン獲得サービス向上は火緒のこと。

今後も最大限の取り組みをしていかねばならない。

従来競争においても危機感はつづくも本業の目的達成のために取り組むことを期待する。

H29 5月27日

諫早市 市議会タブレット導入について
古谷章男

あつたそれで副議長は百全委員会の委員長の
経験者で、当時周南市に調査にこられたことがあるとのことで、何か非常に親近感があつて、
タブレット導入について会派で視察といふことで
かなり本音に近い説明が聞けたと思う。

H27. 試験的にモデルとして当時の議長が
EC化ペーパレス化でタブレット導入をはじめ
かけて、能率化と利便性の向上、議会事務局
の効率化、省力化を図る。しかしペーパレス化を
目的としたわけではないこと。

状況は規則を見直し本会議場 委員会で使用
を認める。しかし執行部は導入していないので
あまり実效果はないのではないかこと。

購入費は議員個人で政務活動費で
負担5000円とするとのこと。事務局はタブレット
いらないとのこと。執行部があるし不明で
あるためすべての決算判断で公費では
それ以上のこと。

導入して3年目であり活用は中止端である
とのこと

若干議員はかなり活用頻度が高いと思われ
十分に活用されない議員もいるとのこと

なぜかフレットを本会議・委員会で使用しないのか、
今ひとつ理解に苦しむ。

これはわれらの効率化をめざすが議会が
本当に必要として言論の対話への認識や
考え方にはもう古いのであろうか：

導入する以上はすべての議題を見直さなければ
ならぬ。議会が本当の意味で効率化を
議会に導入する以上根本から見直さなければ
ならぬと想ふ。
またまた疑問も多く少し慎重に見直さなければ
ならぬ。